

令和2年度「男女共同参画の視点からの
新型コロナウイルス感染症対策に関する調査」
中間報告書



【調査トップ画面】

内閣府

新型コロナウイルス感染症が暮らしに与えた影響に関する調査

【このアンケートについて】
このアンケートは、新型コロナウイルスの感染拡大によって、雇用や暮らしがどのように変化したかを把握し、必要な対策を考えることを目的として、内閣府が行うものです。

このアンケート内には、新型コロナウイルス感染症が仕事や生活に及ぼしている影響、収入・家計などの質問が含まれます。答えづらい質問もあるかと思いますが、趣旨をご理解の上ご参加いただける場合は、次ページにお進みください。なお、ご回答によって設問数に差が生じます。

※アンケートの回答は、お一人につき1回までです。

※調査の結果は通常と向しく統計処理され個人が特定されることはありません。
例えば「はい」のご意見が50%というように、個人としてはなく、数量として集計・分析されます

※記述式の回答については、個人が特定されないよう、表現を変更することがあります。

調査結果は、ホームページなどでご紹介する予定です。

注意事項
回答中にブラウザの「戻る」を使用しないでください。
回答は、各ページ6分以内に送信してください。
JavaScriptおよびCookieを有効にしてください。

推奨ブラウザ
Microsoft Internet Explorer 11
Firefox 14.0以降
Google Chrome 21.0以降

推奨OS
Windows10
Windows8

【SNS告知画面】

内閣府 @cao_japan · 12月2日

【#男女共同参画】
新型コロナウイルスの感染拡大によって、暮らしがどのように変化したかを把握するため、アンケートを実施しています。
12月7日（月）10時までアンケートを公開しておりますので、是非ご協力をお願いします！

回答はこちらから→marketing.post-survey.com/kurasi20/

🗨️ 2 🔄 20 ❤️ 16 📌

◆調査名： 令和2年度「男女共同参画の視点からの
新型コロナウイルス感染症対策に関する調査」

◆調査実施者：内閣府 男女共同参画局

◆調査方法と対象者

【①インターネット調査】

回収数	10,571人(6,679世帯) ※配偶者と同居している人はカップル調査で実施(一部単独回収も含む)
対象	全国の20～60代のインターネットパネル登録モニター
調査期間	令和2年11月27日～12月8日

【②SNSを経由したインターネット調査】

回収数	36人(12月12日現在)
対象	内閣府のfacebook、TwitterにアンケートURLを掲載、 閲覧者に参加を募るオープン形式で実施
調査期間	令和2年12月2日～12月31日(予定)

※調査結果はインターネット調査のみの数値、集計速報値の為
最終報告数値は変更予定
※「令和元年度 家事等と仕事のバランスに関する調査」と一部
同様の質問で実施、結果比較が可能な箇所は適宜比較分析
(報告書中は「2019年度調査」と掲載)

次ページより、
上記調査結果の内容を引用・抜粋

2. 基本属性

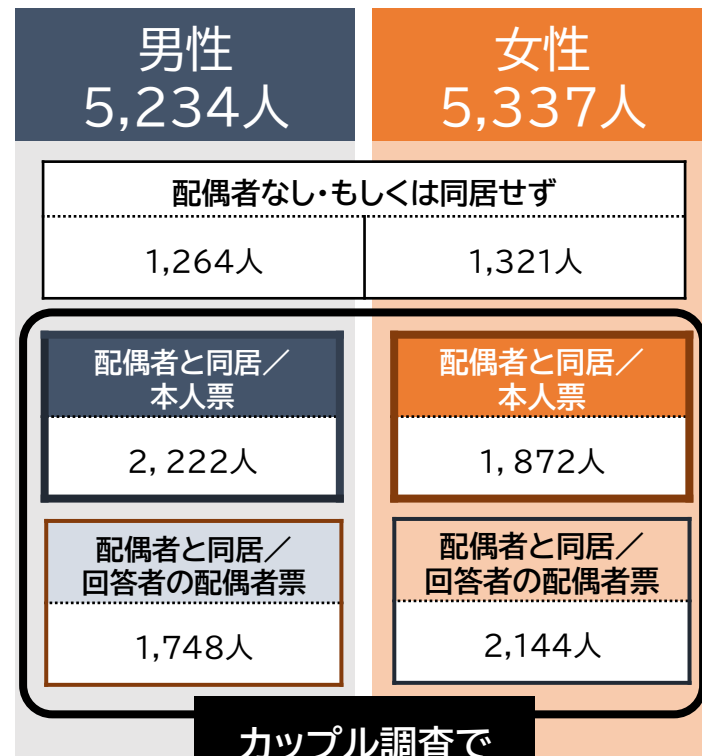
1. 回収数の内訳 平成27年国勢調査における世帯類型別人口に基づき、以下のとおり回収。

目標回収数	割合	18.1%	44.3%	9.4%	16.7%	11.6%	-	-	6,500 (世帯)
	目標数	1,083	2,657	562	1,001	697	500	-	

世帯数 (世帯ベース)	世帯の家族類型						※※(再掲) 母子世帯 父子世帯 (ひとり親世帯)	計	
	夫婦のみ世帯	夫婦と子供から成る世帯	男親もしくは女親と子供から成る世帯※	単独世帯	※(再掲)3世代世帯	その他			
全体	1,115	2,550	554	1,143	717	600	453	6,679	
年代別	20代	94	364	53	294	126	120	66	1,051
	30代	146	617	89	226	121	120	108	1,319
	40代	144	721	222	202	160	120	225	1,569
	50代	229	493	115	187	161	120	52	1,305
	60代以上	502	355	75	234	149	120	2	1,435

【回収数】※人ベース

全体		2,230人	4,919人	554人	1,143人	1,078人	647人	453人	10,571人
年代別	20代	184人	675人	53人	294人	135人	120人	66人	1,461人
	30代	281人	1,285人	89人	226人	161人	122人	108人	2,164人
	40代	307人	1,404人	222人	202人	269人	126人	225人	2,530人
	50代	482人	911人	115人	187人	261人	129人	52人	2,085人
	60代以上	976人	644人	75人	234人	252人	150人	2人	2,331人



※男親もしくは女親と子供から成る世帯…片親と子供のみからなる世帯。同居する子供は何歳でも良い(20歳以上でも対象)、他に祖父母など子供以外と同居していたら該当しない、対象者が既婚でも対象となる。
 ※母子世帯・父子世帯・母子・父子世帯(他の世帯員がいる世帯を含む)(ひとり親世帯)…片親と19歳以下の子供を含み、20歳以上の子供はいない世帯。他に祖父母などと同居していても該当するが、20歳以上の子供も同居している場合は除外。対象者は未婚もしくは離死別(既婚は除外)。

※調査結果はインターネット調査のみの数値、集計速報値の最終報告数値は変更予定

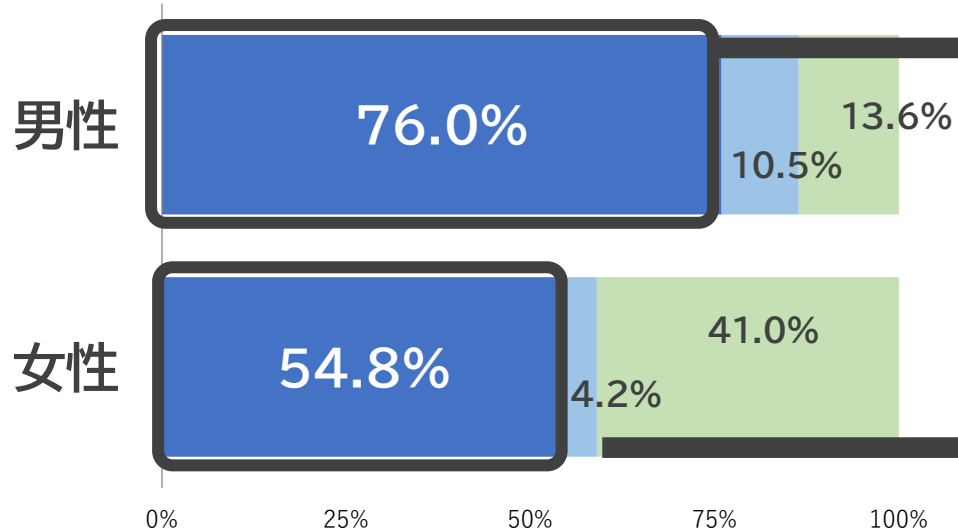
※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

2. 職業情報

- ・男性有職者は76.0%に対して、女性有職者は54.8%。
- ・勤務形態は、男性はフルタイム率97.9%、女性は72.9%。

Q. 現在の雇用形態

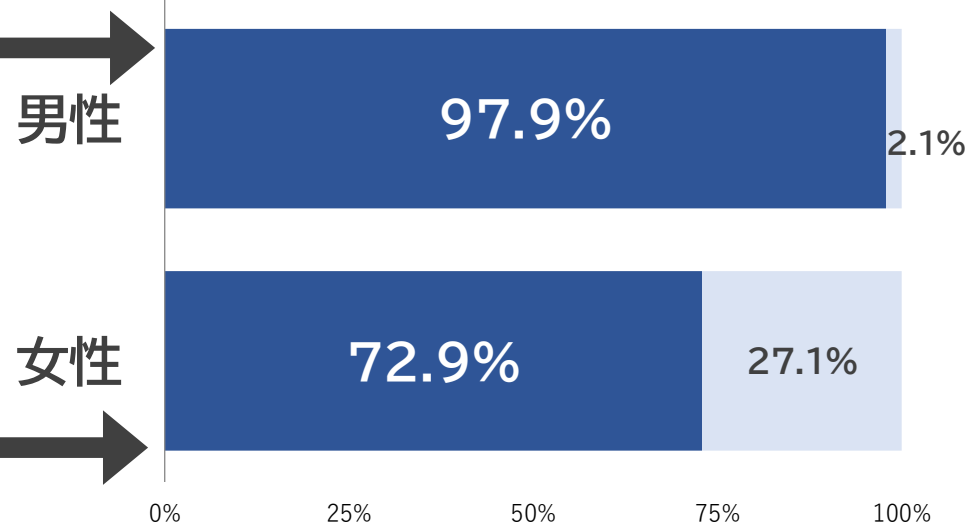
- 有職者／雇用されている人＋会社役員
- 有職者／その他(自営業など)
- 仕事をしていない



Q. 現在の勤務形態

※雇用されている人＋会社役員が対象

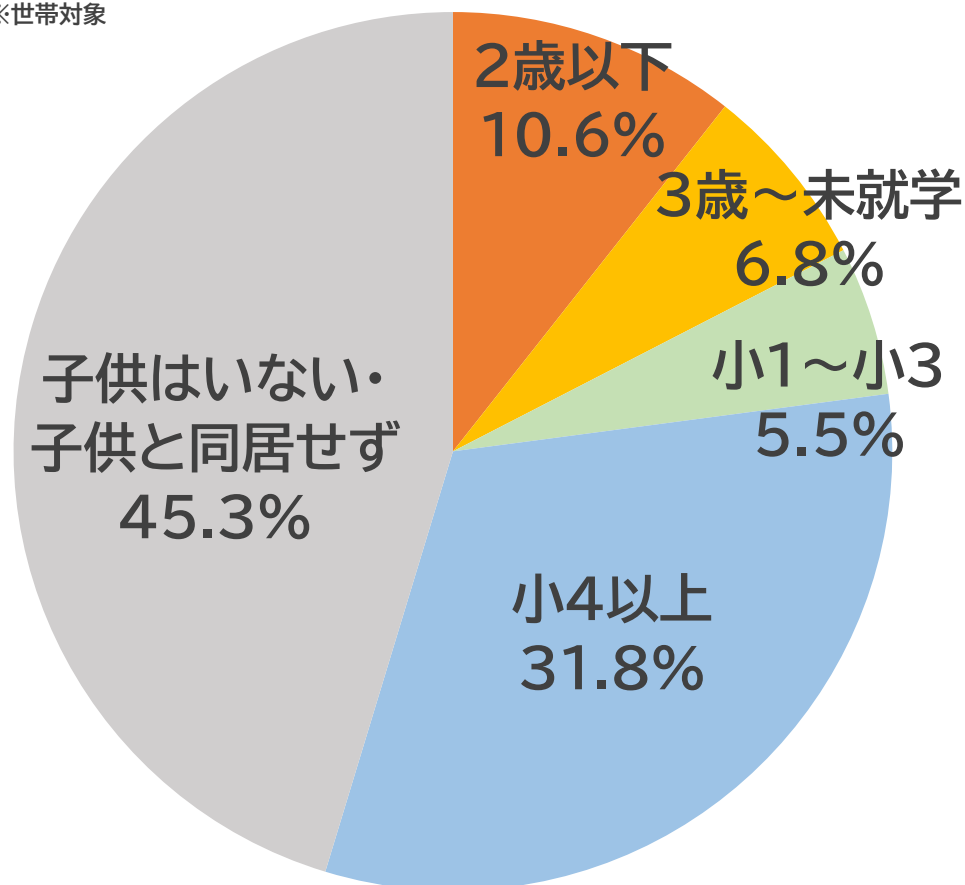
- フルタイム
- 短時間勤務



3. 末子年齢

- ・子供と同居している世帯は、全体の45.3%。
- ・末子が2歳以下の世帯は10.6%、3歳～未就学は6.8%、小1～小3の世帯は5.5%。

※世帯対象

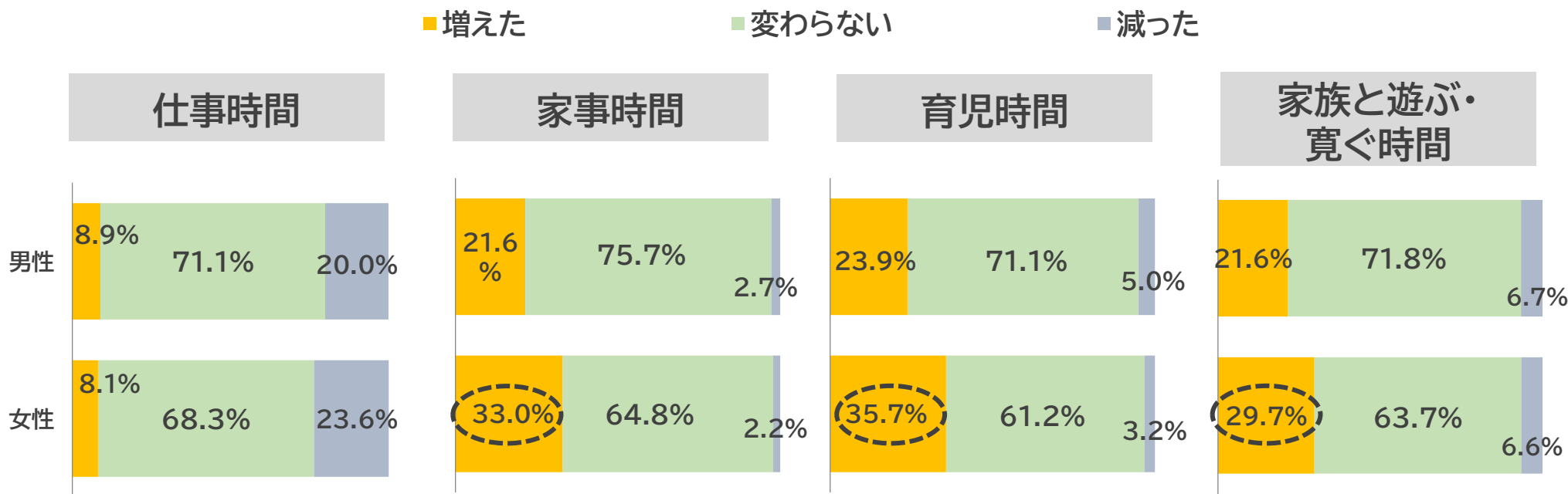


3. 生活全般の状況とコロナによる影響

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

1. 緊急事態宣言中の時間の使い方変化(緊急事態宣言前と比べての増減)

- 男女ともに、「仕事時間」は減ったとする人が2割強。
「家事時間」は、女性の方が増えたとする人が多く、33.0%。一方男性は21.6%。
- 「育児時間」も「家事時間」と同様の傾向で、女性で35.7%の人が増加したのに対し、男性は23.9%。
- 「家族と遊ぶ・寛ぐ時間」は、男性で21.6%が増加に対し、女性で29.7%と、女性の方が高い。



※本調査では緊急事態宣言中とその前とで比較してデータをとっているが、今後、2019年度調査での結果(掛かった時間)との比較結果を掲載予定
※「もともとしていない・必要ない」を除いて集計

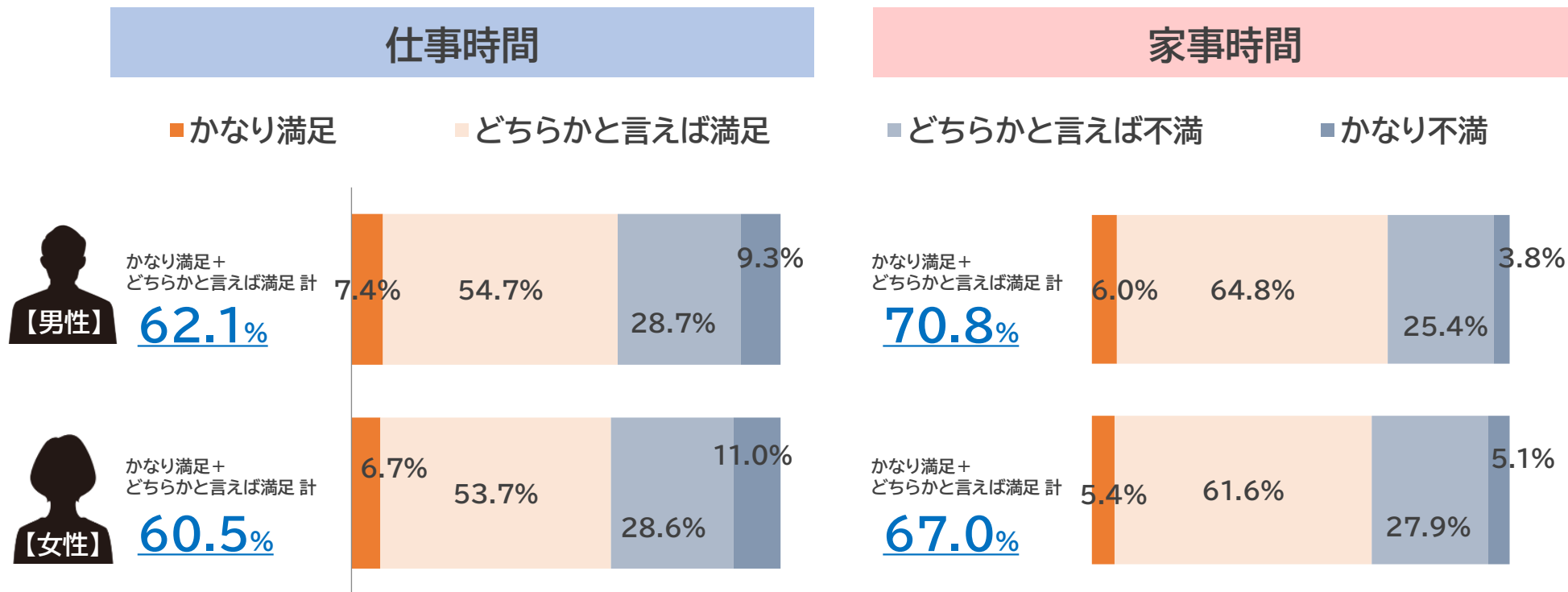
※調査結果はインターネット調査のみの数値、
集計速報値の為最終報告数値は変更予定

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

2. 現在の各時間への満足度

- ・「仕事時間」の満足度(かなり満足+どちらかと言えば満足)は、男性で62.1%、女性で60.5%。
- ・「家事時間」の満足度は、男性で70.8%、女性で67.0%。

※「該当しない」と答えた人は除いて集計

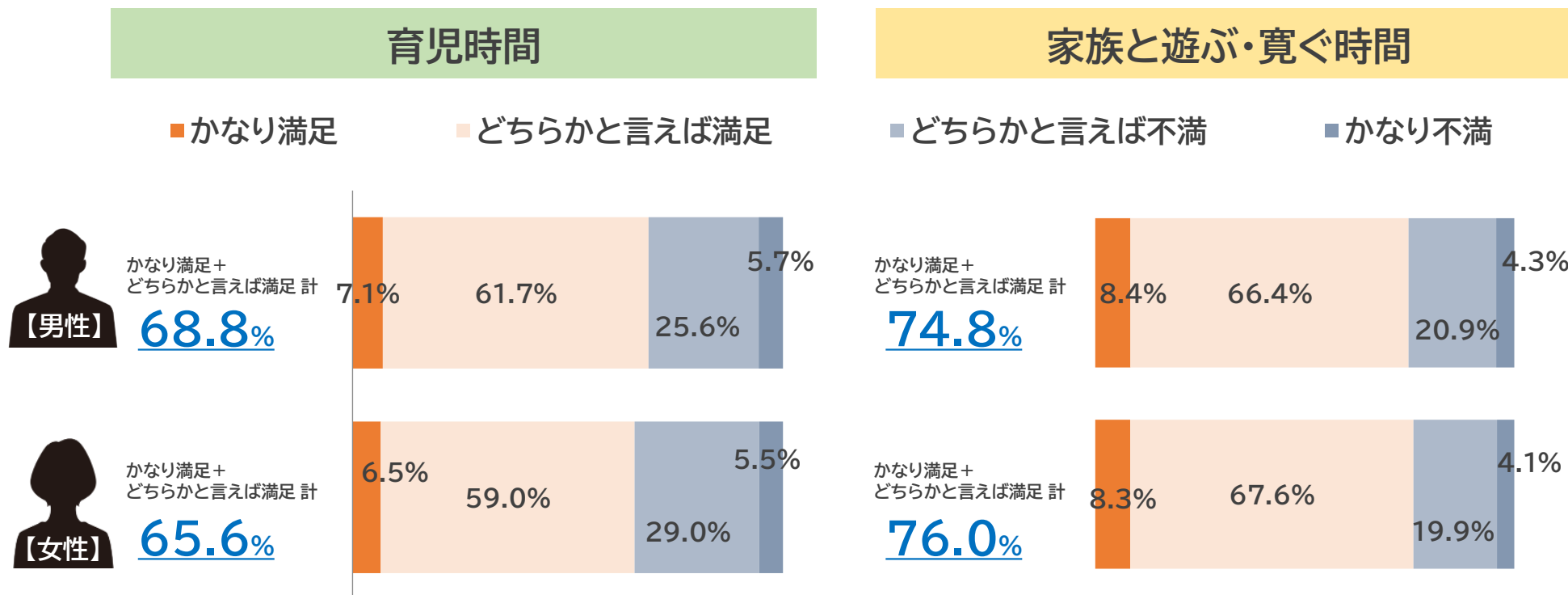


※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

2. 現在の各時間への満足度

- ・「育児時間」の満足度(かなり満足+どちらかと言えば満足)は、男性68.8%に対し、女性は65.6%。
- ・「家族と遊ぶ・寛ぐ時間」の満足度は、男性74.8%、女性76.0%。

※「該当しない」と答えた人は除いて集計



3. 配偶者との家事分担と満足度

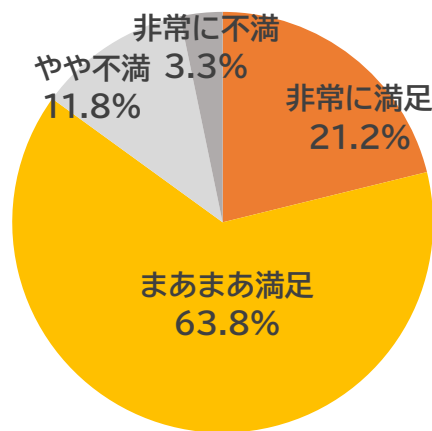
・男性では、家事分担に満足とする人(非常に満足+まあまあ満足)が84.5%。
対して女性では満足とする人は66.9%に留まり、17.6%ポイント差。

Q. 配偶者の家事分担に対する満足度

※配偶者と同居している人対象

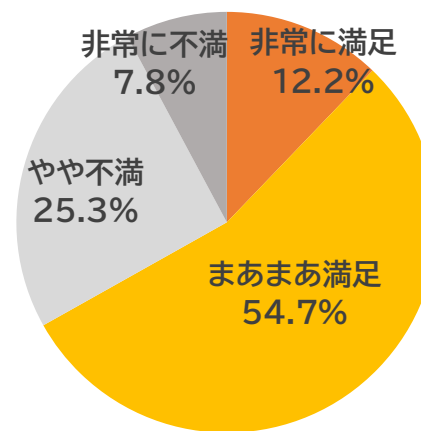


【男性】



非常に満足+まあまあ満足 計

84.5%



非常に満足+まあまあ満足 計

66.9%



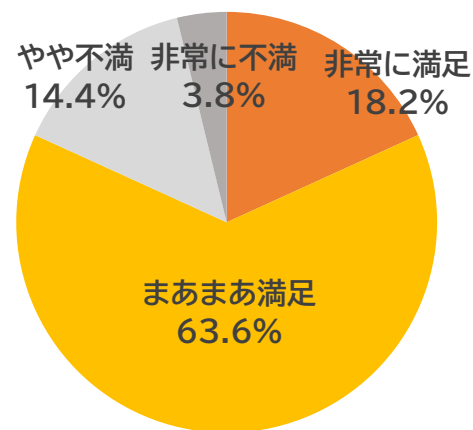
【女性】

4. 配偶者との育児分担と満足度

・男性では、育児分担に満足とする人(非常に満足+まあまあ満足)が81.8%。
対して女性では満足とする人は64.7%に留まり、17.1%ポイント差。

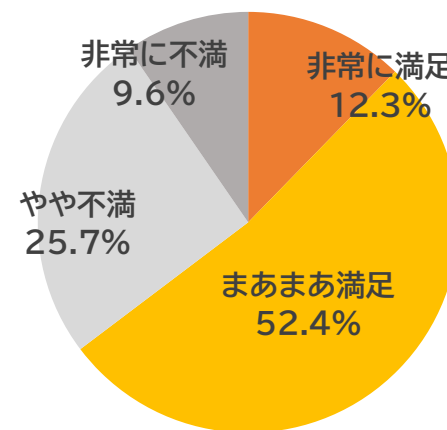
Q. 配偶者の育児分担に対する満足度

※配偶者と同居、かつ
小3以下の子供がいる人対象



今回調査
非常に満足+まあまあ満足 計

81.8%



今回調査
非常に満足+まあまあ満足 計

64.7%



※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

5. 1日の時間の使い方への総合的な満足度

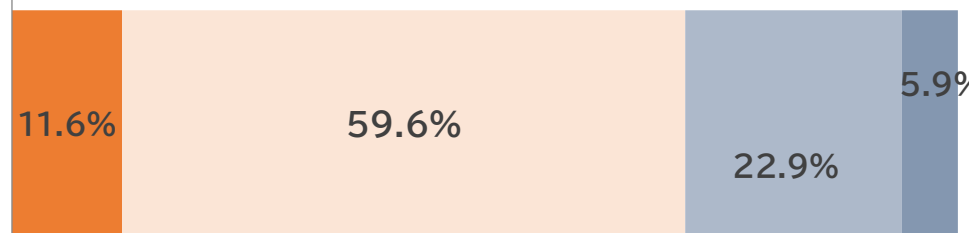
・満足とする人(かなり満足+どちらかと言えば満足)が、
男性では71.2%、対して女性では67.9%。

■ かなり満足 ■ どちらかと言えば満足 ■ どちらかと言えば不満 ■ かなり不満



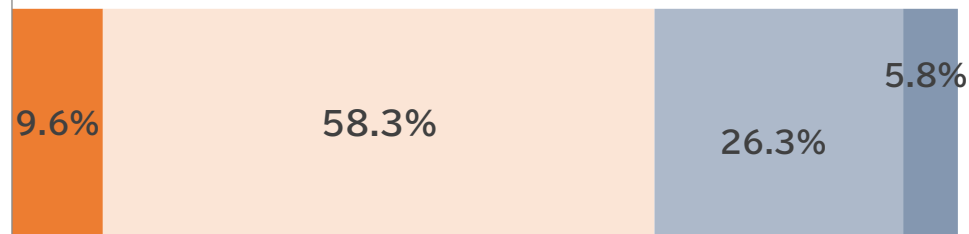
かなり満足
+どちらかと言えば満足 計

71.2%



かなり満足
+どちらかと言えば満足 計

67.9%



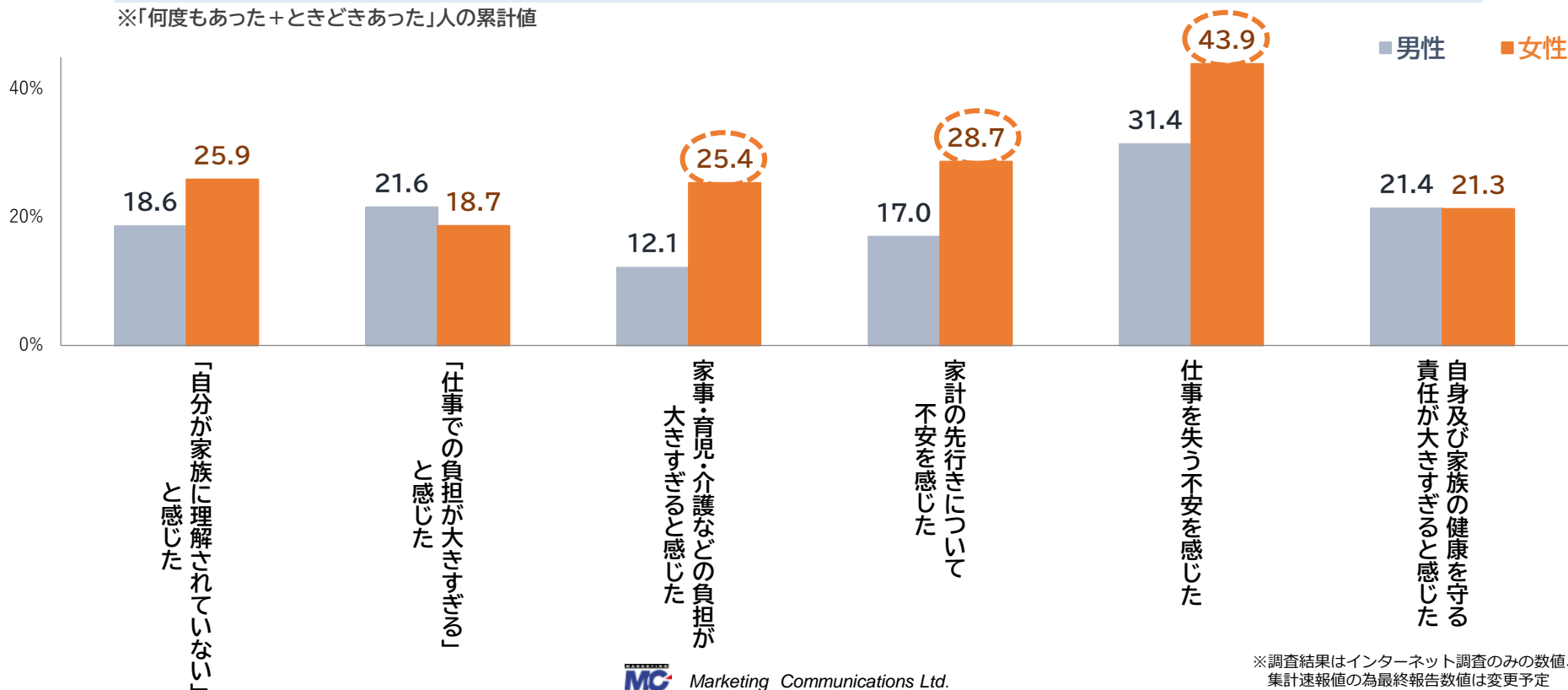
※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

6. 緊急事態宣言中の不安やストレス

- ・全体的に女性の方が「不安を感じた」とする割合が高い。特に男女で差があるのが「家事・育児・介護などの負担が大きすぎると感じた(13.3%ポイント差)」
- 「仕事を失う不安を感じた(12.5%ポイント差)」
- 「家計の先行きについて不安を感じた(11.7%ポイント差)」

Q. 緊急事態宣言中に不安を感じた機会がどれだけあったか

※「何度もあった+ときどきあった」人の累計値



※調査結果はインターネット調査のみの数値、
集計速報値の為最終報告数値は変更予定

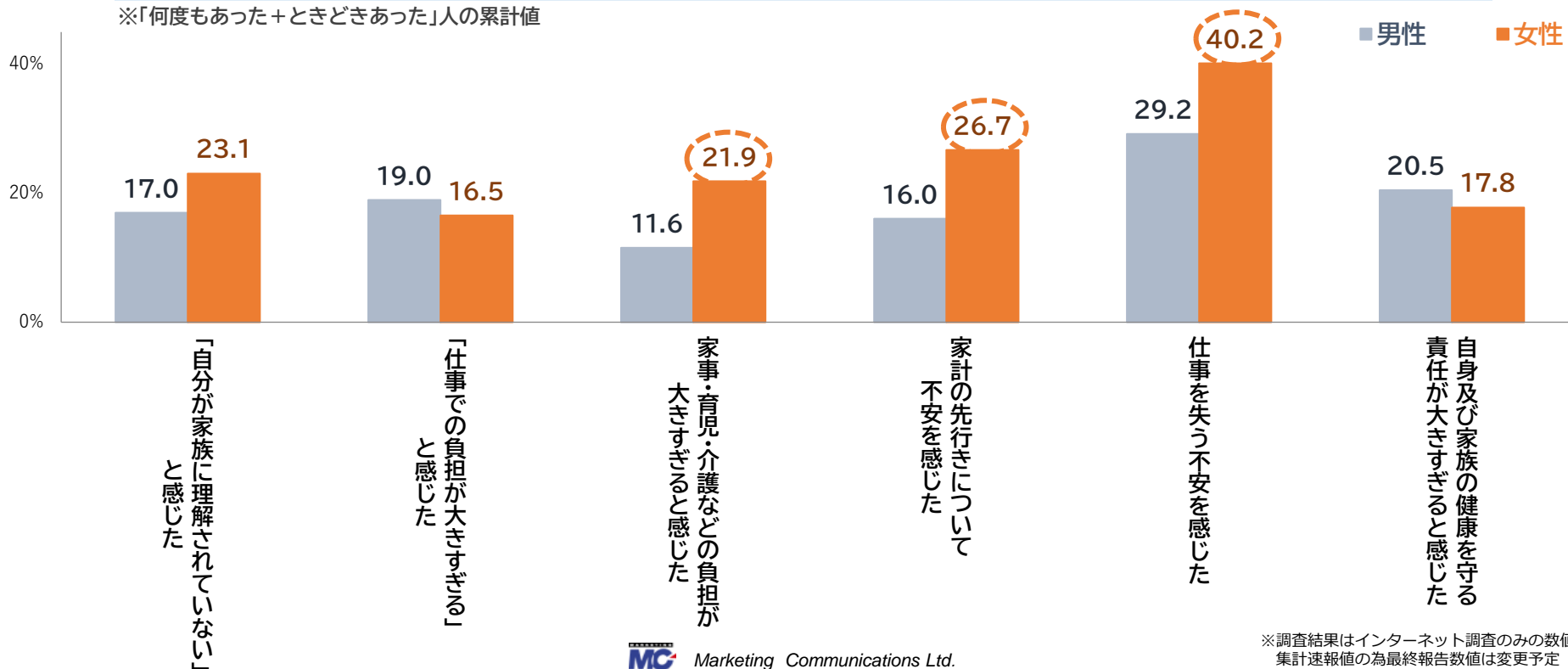
※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

7. この1か月の間に感じた不安やストレス

- 全体的に、緊急事態宣言中よりも数値はやや下がっている。
- 女性の方が「不安を感じた」とする割合が高い傾向は同様で、特に男女で差があるのが「仕事を失う不安を感じた(11.0%差)」、「家計の先行きについて不安を感じた(10.7%ポイント差)」、「家事・育児・介護などの負担が大きすぎると感じた(10.3%ポイント差)」。

Q. この1か月の間に、不安を感じる機会がどれだけあったか

※「何度もあった+ときどきあった」人の累計値



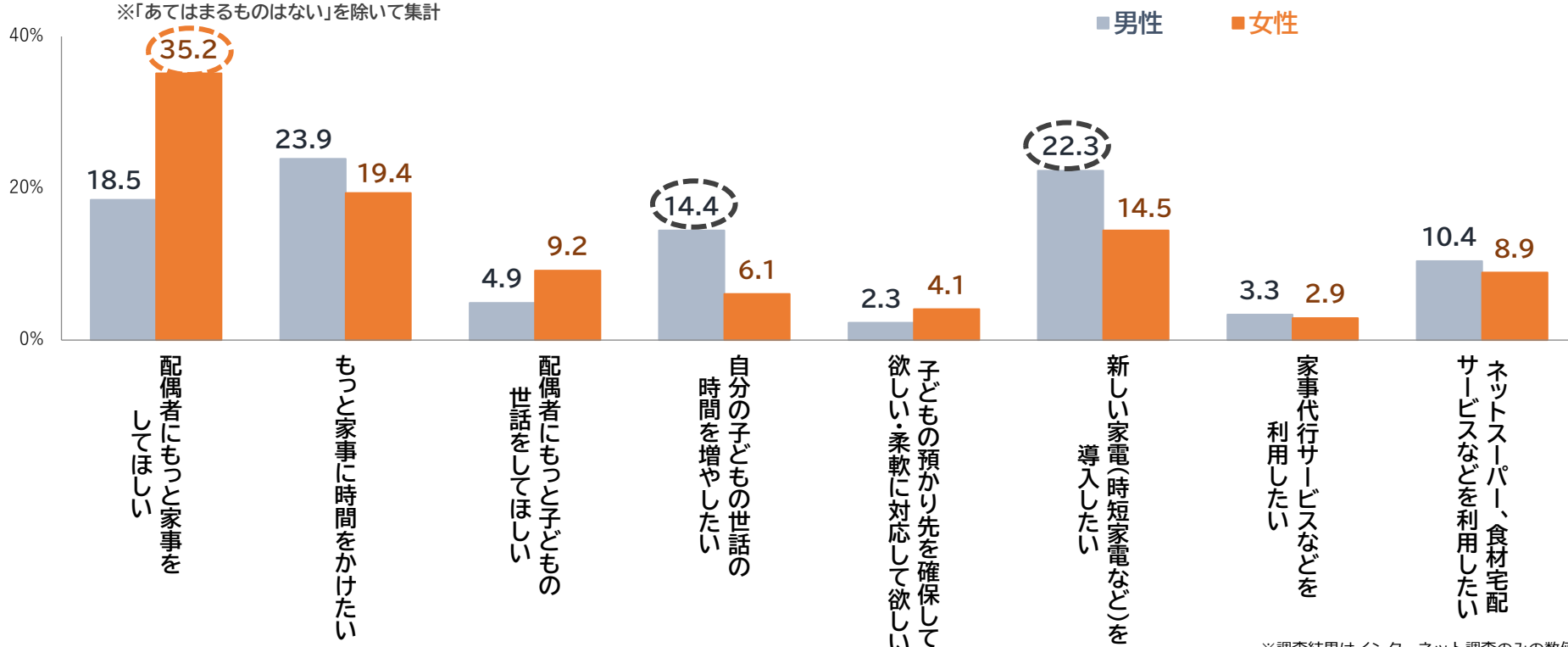
※調査結果はインターネット調査のみの数値、
集計速報値の為最終報告数値は変更予定

8. 今後に向けて

- ・男女で差が最も大きい項目は、「配偶者にもっと家事をしてほしい」は女性35.2%、男性18.5%と、女性の方が16.7%高い。
- ・男性の方が高い項目は、「新しい家電を導入したい」(男性22.3%、女性14.5%)、「自分の子供の世話の時間を増やしたい」(男性14.4%、女性6.1%)。

Q. 緊急事態宣言を経て、今後、家事・育児に望むこと

※配偶者と同居しておりかつ19歳以下の子供がいる人対象
 ※「あてはまるものはない」を除いて集計

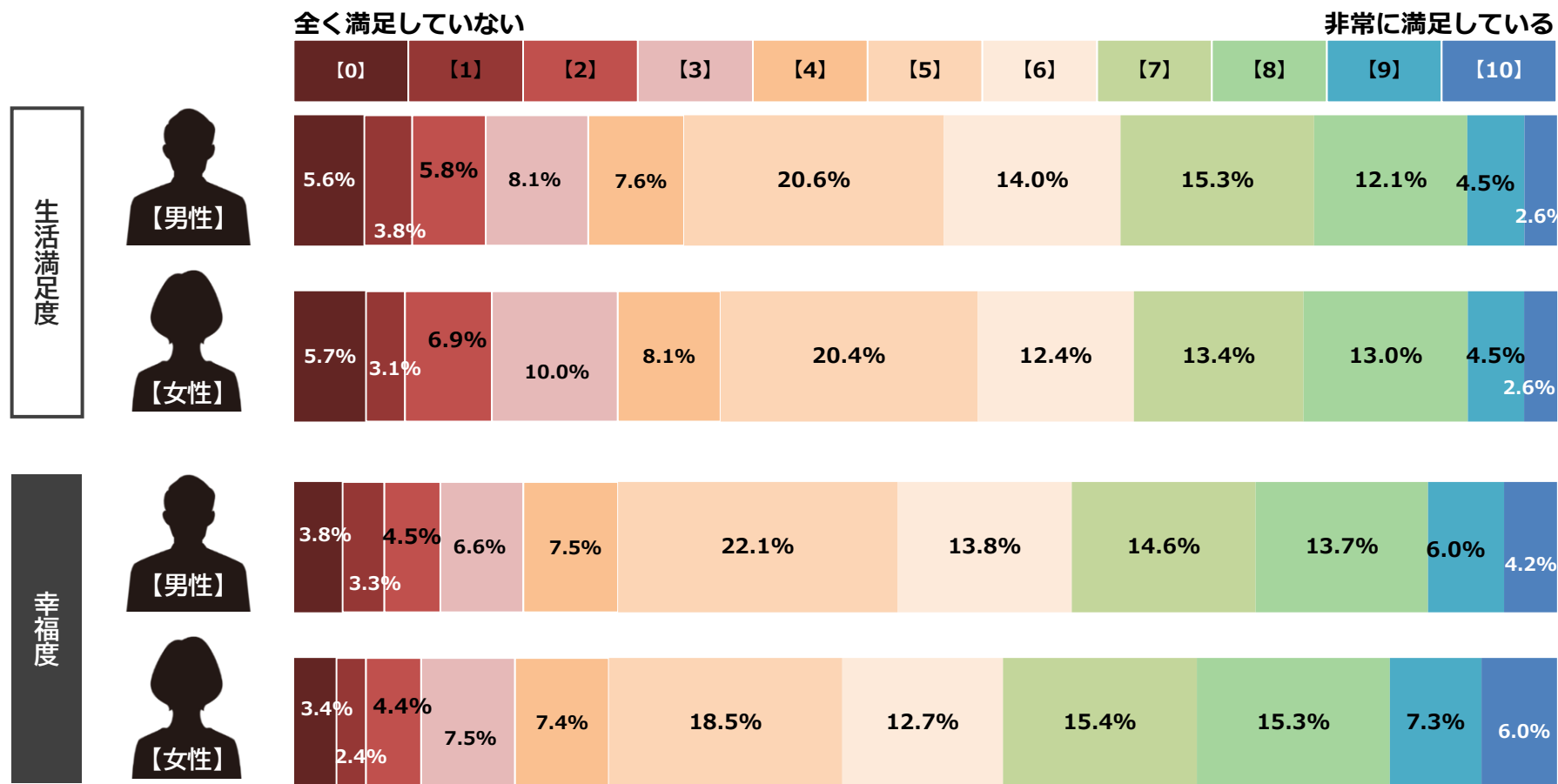


※調査結果はインターネット調査のみの数値、集計速報値の為最終報告数値は変更予定

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

9. 現在の生活満足度と幸福度

- ・生活満足度については男女に大きな差は見られないものの、幸福度については「男性」より「女性」の方が、やや「満足」よりの割合が高い。



4. 仕事の状況とコロナによる影響

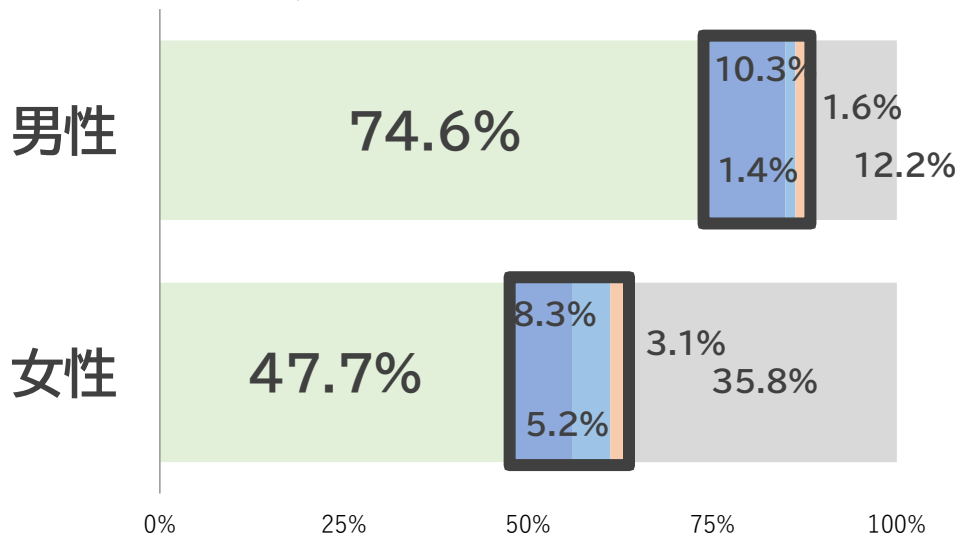
※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

1. 仕事の変化と今後の継続意向

- ・緊急事態宣言前後で、「仕事は変わった」もしくは「前は働いていたが現在は働いていない」とした人は、男性で11.7%、女性で13.5%。
- ・仕事の継続意向は、「違う仕事に転職したい」とした人は、男性14.1%、女性17.2%。

Q. 緊急事態宣言前と現在で仕事は変わったか

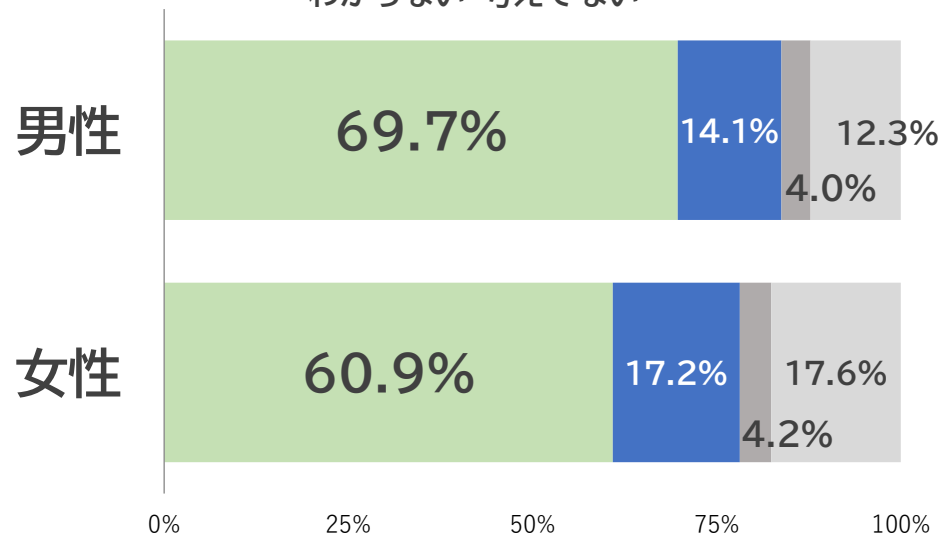
- 変わらない
- 仕事は変わった
- 前は働いていたが現在は働いていない
- 前は働いていなかったが現在は働いている
- 前も今も働いていない



Q. 現在の仕事の継続意向

※雇用されている人+会社役員が対象

- 現在の仕事を今後も続けたい
- 転職したい
- 今後は働きたくない
- わからない・考えてない



※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

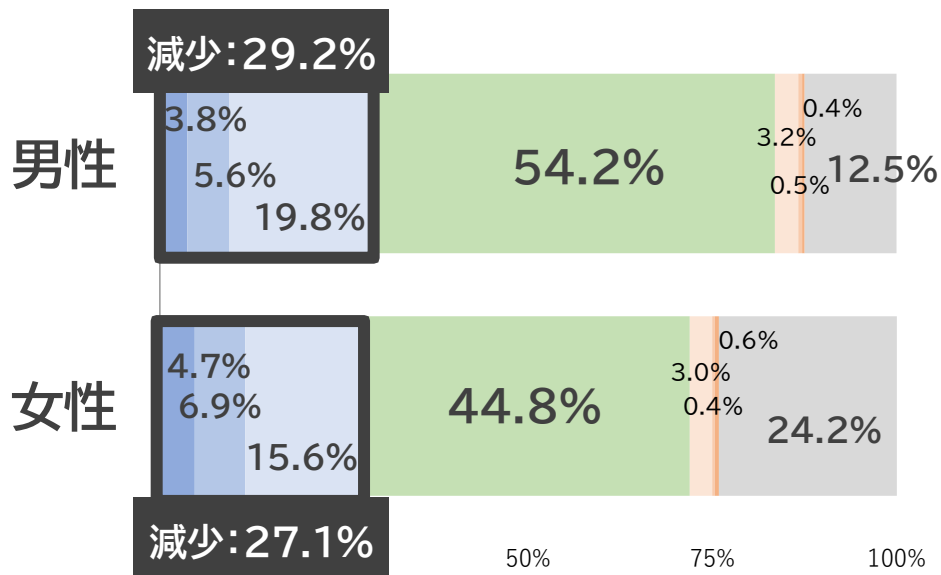
2. 収入の変化(昨年と現在を比べて)

- ・個人年収の変化は、「変わらない」が男女とも半数。
昨年と比べて「減少」した人は、男性29.2%、女性27.1%と、どちらも3割弱が減少。
- ・世帯年収の変化は、昨年と比べて「減少」した世帯は29.1%。

Q. 個人年収の変化

※現在収入がある人対象

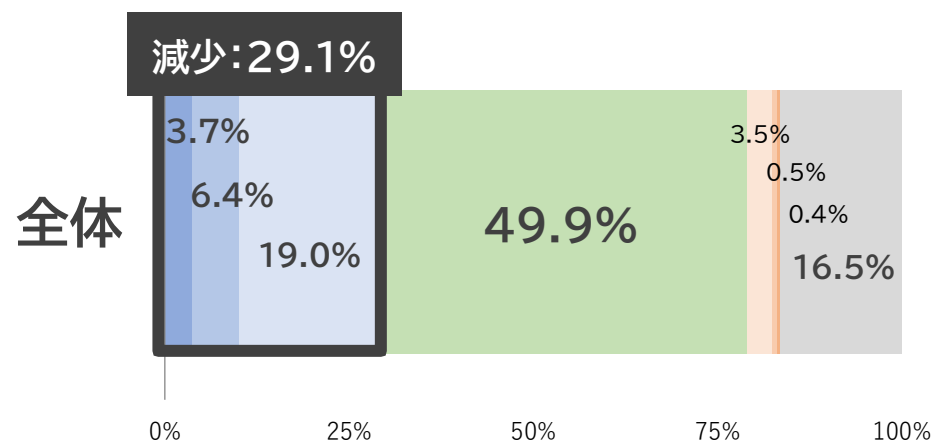
- 5割以上減少
- 1~2割程度減少
- 1~2割程度増加
- 5割以上増加
- 3~4割程度減少
- 変わらない
- 3~4割程度増加
- わからない・答えたくない



Q. 世帯年収の変化

※現在収入がある世帯対象

- 5割以上減少
- 1~2割程度減少
- 1~2割程度増加
- 5割以上増加
- 3~4割程度減少
- 変わらない
- 3~4割程度増加
- わからない・答えたくない



※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

3. 就業時間の変化

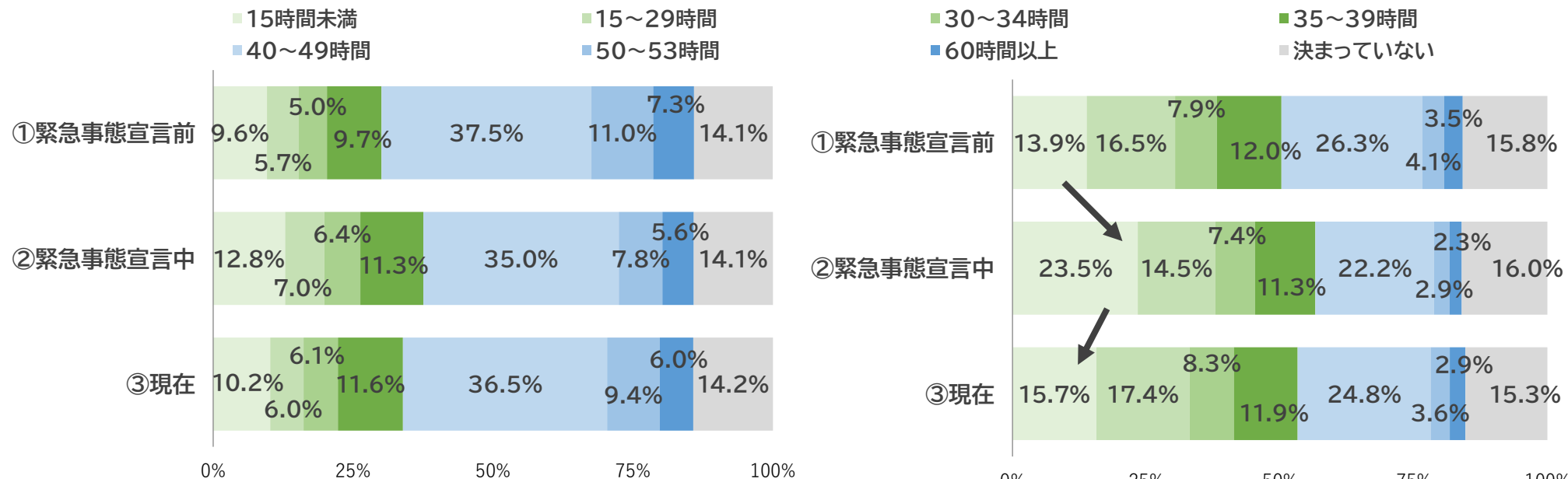
- ・就業時間変化では、男女ともに「緊急事態宣言前」から「宣言中」にかけて就業時間は短くなり、現在は少し戻りつつある傾向は同様。
- ・女性では「15時間未満」の人が「緊急事態宣言前」から「宣言中」にかけて9.6%増加し、現在にかけて減少傾向。

Q. 三時点での就業時間の変化

※有職者対象

【男性】

【女性】



※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

4. テレワーク実施率の変化

- ・緊急事態宣言前は、男性16.4%、女性19.0%がテレワーク実施とやや女性の方が高い。
- ・緊急事態宣言中は、男性43.6%、女性37.0%が実施と、男性の実施率が女性を上回る。
- ・現在については、男性38.1%、女性35.3%と、男性の実施率が上回ったまま。

Q. 三時点でのテレワーク実施率の変化

※雇用されている人+会社役員が対象

【男性】

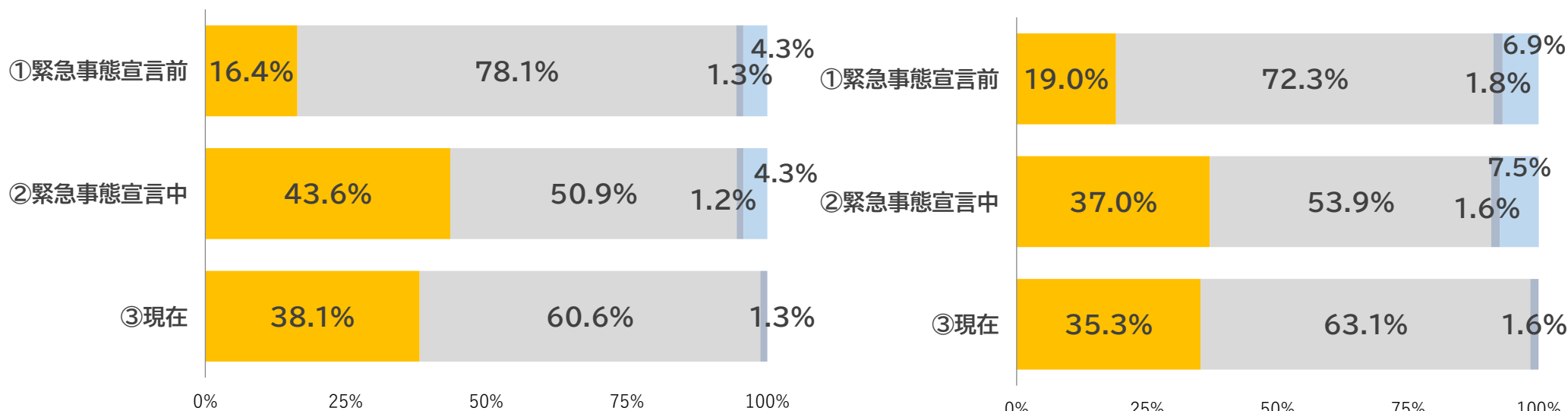
【女性】

■ テレワーク実施

■ ほぼしていない+その他

■ もともと在宅

■ 働いていない・いなかった



※調査結果はインターネット調査のみの数値、
集計速報値の為最終報告数値は変更予定

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

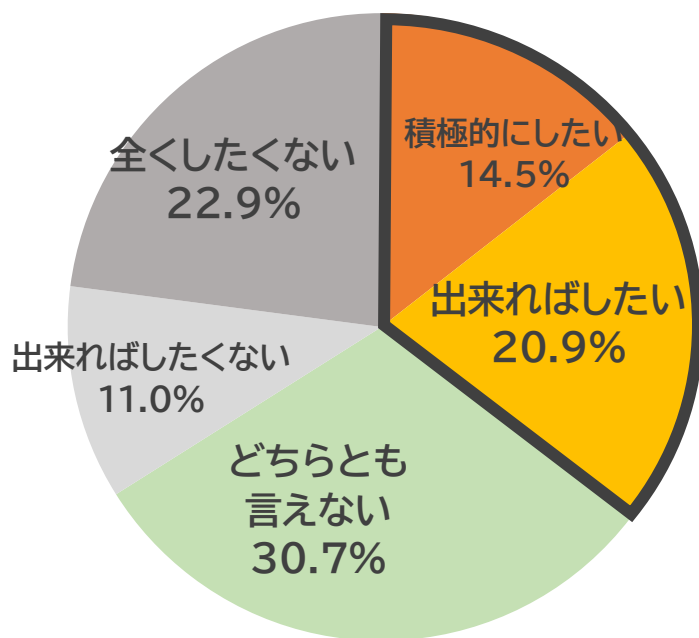
5. 今後のテレワーク継続意向

・今後テレワークで働きたいと思う割合(積極的にしたい+出来ればしたい)は、
男性35.4%、女性35.6%と、ほぼ同程度。

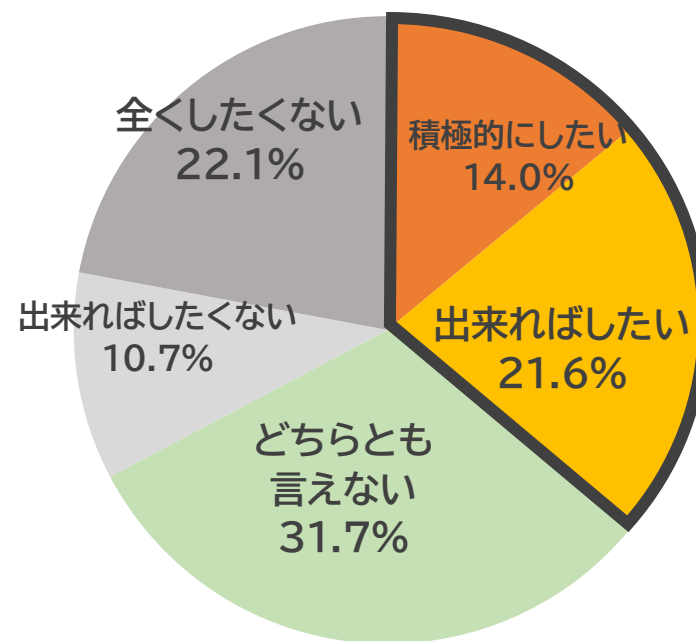
Q. 今後もテレワークで働きたいと思うか

※雇用されている人+会社役員が対象

【男性】



【女性】



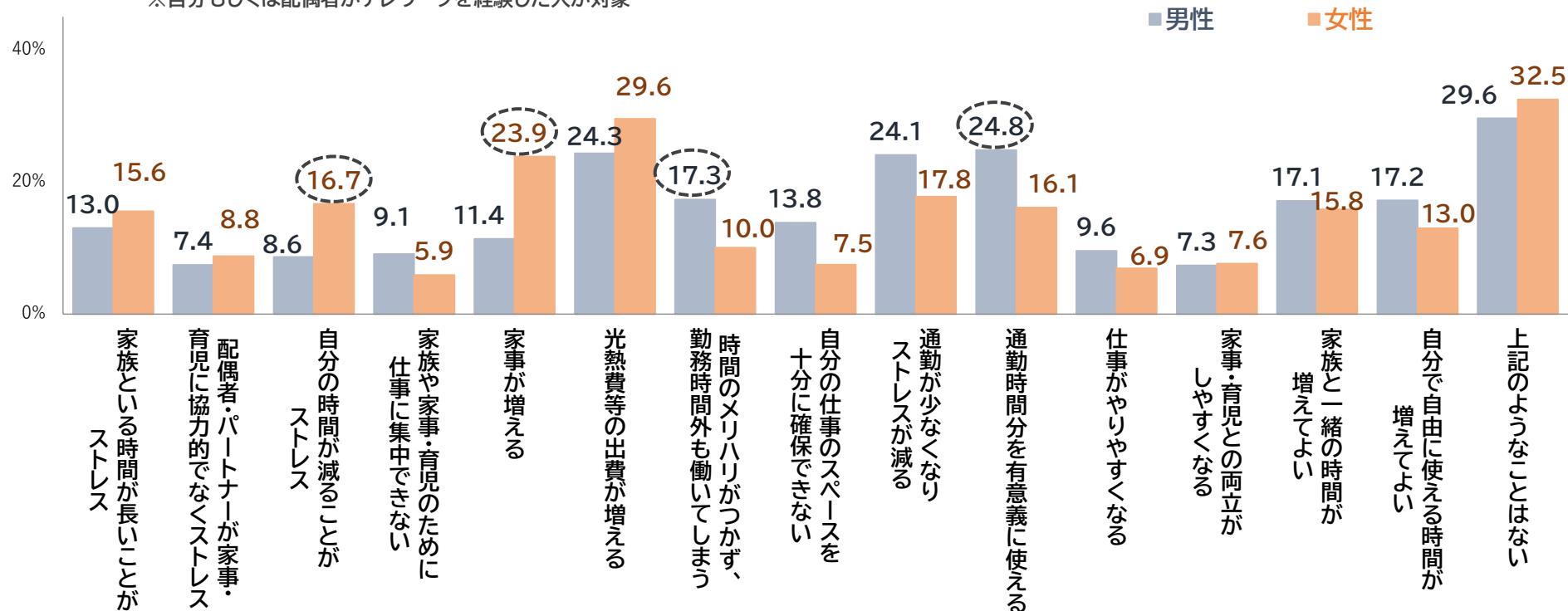
※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

6. テレワークのメリット・デメリット

- ・男女で差がある項目(7%以上)は、男性では「通勤時間分を有意義に使える」とプラスの要素も高いものの、「時間のメリハリがつかず、勤務時間外も働いてしまう」とマイナスの要素も高い。
- ・女性では、「家事が増える」「自分の時間が減ることがストレス」とマイナス面の要素が男性より高い。

Q. テレワークを経験して感じたこと

※自分もしくは配偶者がテレワークを経験した人が対象



※調査結果はインターネット調査のみの数値、
集計速報値の為最終報告数値は変更予定

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

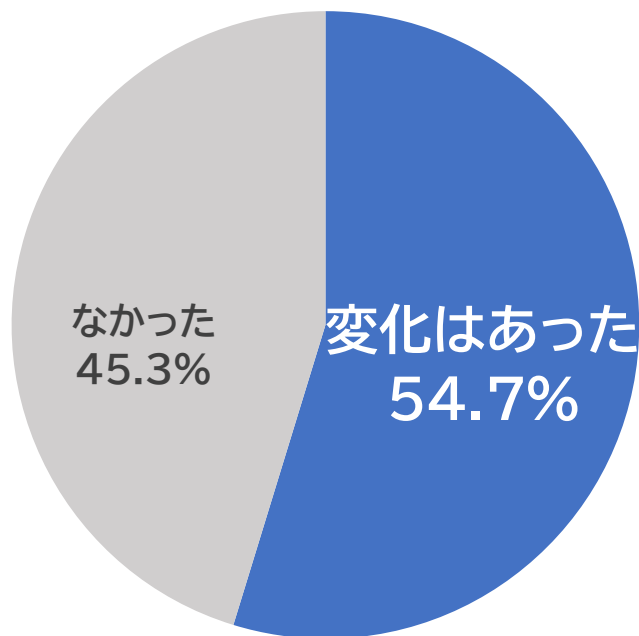
7. コロナによる働き方変化とその理由

・男女とも、「変化はあった」とした人が6割弱。

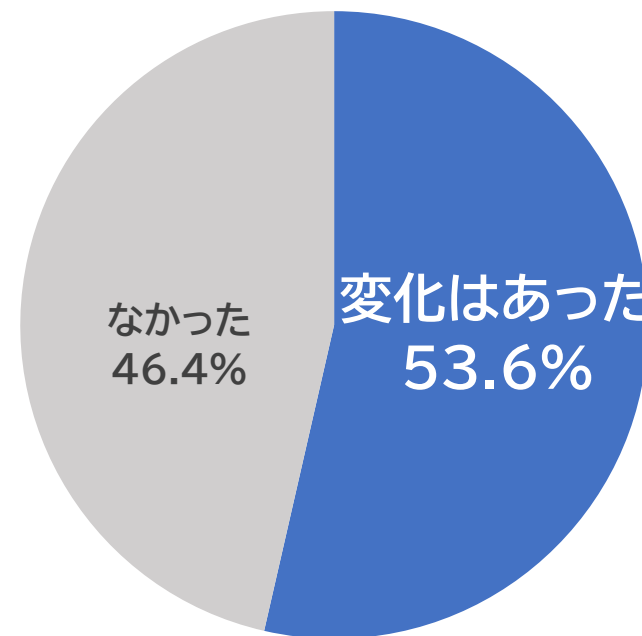
Q. コロナによる緊急事態宣言によって仕事内容に変化はあったか

※有職者+緊急事態宣言前は働いていた人対象

【男性】



【女性】



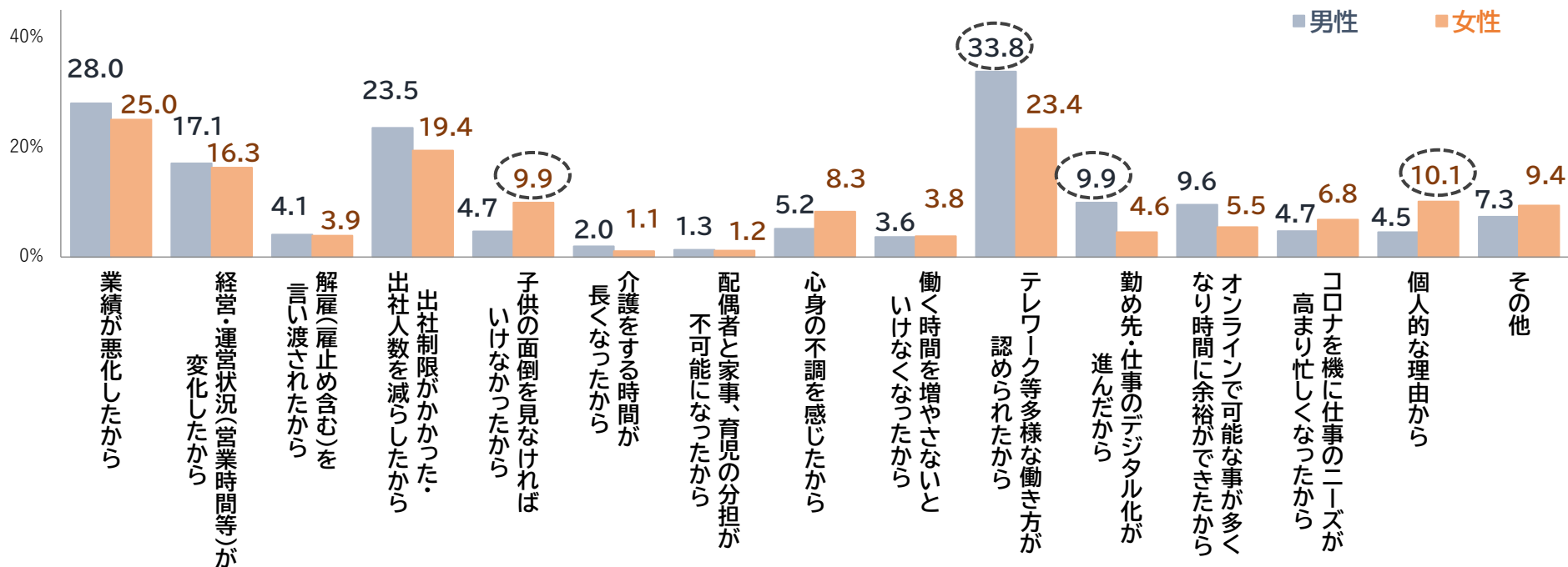
※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

7. コロナによる働き方変化とその理由

- ・男女とも最も高いのはマイナス面では「業績が悪化したから」、プラス面では「テレワーク等多様な働き方が認められたから」。特に男性で高く、女性と比べ10.4%高い。
- ・男女で差がある項目(5%以上)は、「勤め先・仕事のデジタル化が進んだから」が男性の方が高く、「子供の面倒を見なければいけなかったから」「個人的な理由から」は女性が高い。

Q. 働き方に变化があった理由

※「コロナによる緊急事態宣言によって仕事内容に変化はあった」と答えた人



※調査結果はインターネット調査のみの数値、
集計速報値の為最終報告数値は変更予定

5. コロナ下でストレスを感じやすい 業務を行う人について

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

1. あなたご自身の仕事の種類(単数回答)

一般的にエッセンシャルワーカーとしてイメージされる職種(黄色セル)は、
全体で6.6%、男性が3.9%、女性が10.9%と女性に多い。

⇒ 下記黄色セル以外にも欠かすことのできない業務を行う人を抽出し、
「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」を捉えることを検討。

※有職者対象

		勤務先の職種															
		全 体	看護師	医師	介護士・ヘルパー等	保健師	保育士	上記以外の専門・技術系の職業	管理的職業	事務系の職業	営業・販売系の職業	サービス系の職業	生産技能・作業	保安の職業	農林漁業職	運輸・通信	その他
性別	全 体	4,898	2.1	0.5	3.1	0.1	0.8	11.3	8.8	21.2	12.5	7.3	10.3	1.2	0.8	3.5	16.6
	男性	3,013	0.6	0.7	2.3	0.1	0.1	14.0	14.0	15.0	13.2	4.9	12.9	1.9	0.7	4.8	14.7
	女性	1,885	4.4	0.1	4.4	0.2	2.0	6.8	0.6	31.1	11.2	11.0	6.3	0.2	0.9	1.4	19.6



【男性】

3.9%



【女性】

10.9%

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

2. あなたご自身の仕事についてあてはまるもの 「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」度合を測定(複数回答)

男性

女性

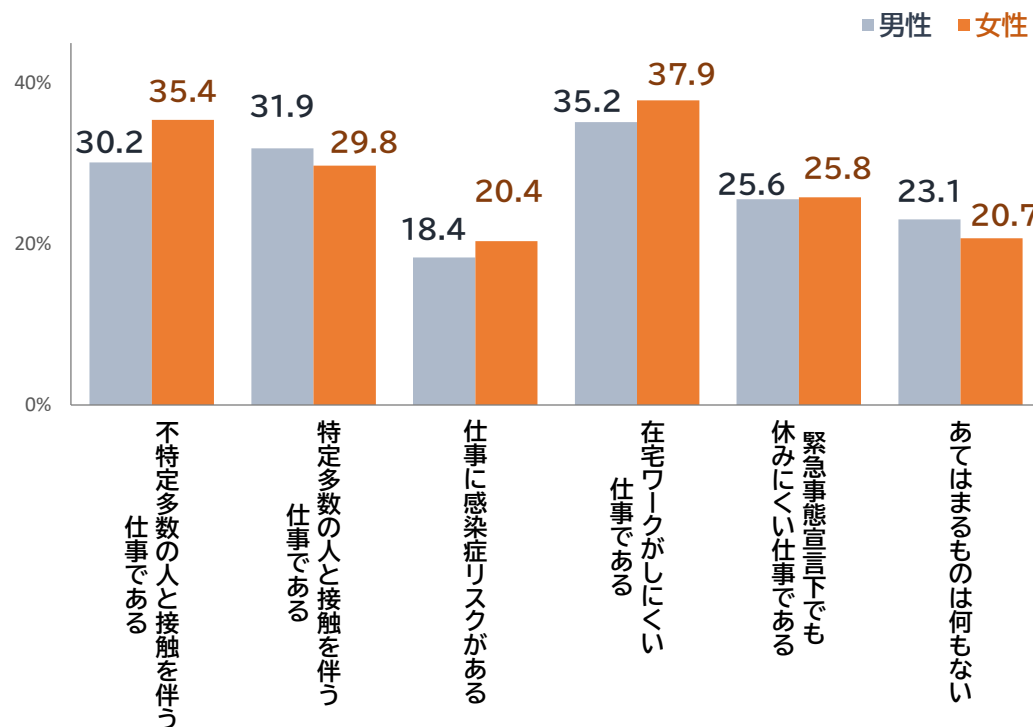
いずれか回答した人
(あてはまるものは何もない以外の人)

いずれか回答した人
(あてはまるものは何もない以外の人)

76.9%

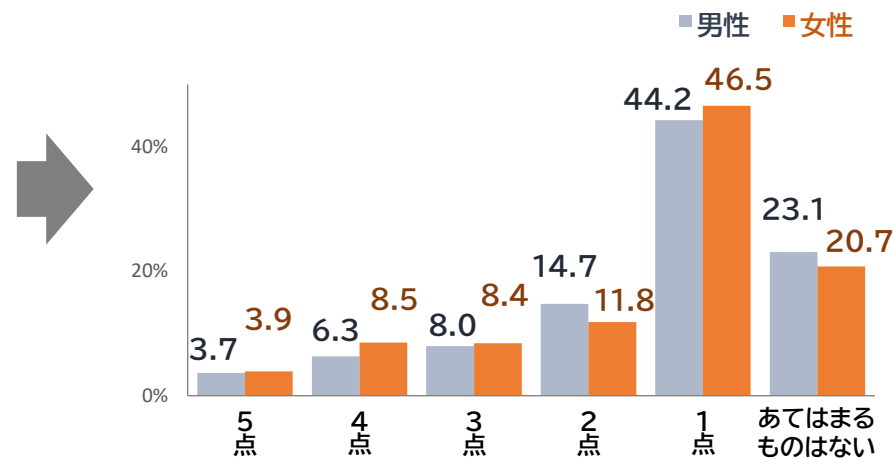
79.3%

※有職者対象



男女ともに「何か当てはまる」と答えた人が8割近くを占める。

■「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」度合に関する質問について、回答個数で得点化(5個回答なら5点、4個回答なら4点)



⇒1点(1つのみ回答)の人が最も多く、3~5点(3~5個回答)の人は男性で18.0%、女性で20.9%と、やや女性の方が高い。

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

3. 「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」得点質問×業種

※有職者対象

「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」得点が3点以上(3個以上回答)の人が
多い業種(全体値から5%以上高い)は、「医療・福祉業(41.5%)」が最も高く、次に「宿
泊業・飲食サービス(25.6%)」、「運輸業・郵便業(25.3%)」の順で高い。

業種	「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」得点							3点以上 の割合
	全体	5点	4点	3点	2点	1点	あてはまるもの なし	
有職者全体	4,898人	3.8	7.2	8.2	13.6	45.1	22.2	19.1
農業・林業・漁業	57人	0.0	1.8	1.8	24.6	38.6	33.3	3.5
鉱業・採石業・砂利採	7人	0.0	0.0	0.0	28.6	42.9	28.6	0.0
建設業	246人	2.9	2.9	6.1	17.1	45.5	25.6	11.8
製造業	884人	1.1	3.6	8.7	14.9	47.5	24.1	13.5
電気・ガス・熱供給・水道業	63人	3.2	1.6	14.3	19.1	41.3	20.6	19.1
情報通信業	220人	0.9	1.8	2.7	11.4	30.5	52.7	5.5
運輸業・郵便業	257人	5.8	8.2	11.3	15.6	45.9	13.2	25.3
卸売業	189人	1.6	3.2	8.5	15.9	47.6	23.3	13.2
小売業	359人	5.3	8.4	9.2	14.2	49.3	13.7	22.8
金融業・保険業	213人	0.5	6.6	7.0	16.4	51.6	17.8	14.1
不動産業・物品賃貸業	109人	2.8	3.7	3.7	15.6	47.7	26.6	10.1
宿泊業・飲食サービス	195人	5.1	7.7	12.8	13.3	51.8	9.2	25.6
教育・学習支援業	266人	1.9	11.3	9.8	13.2	48.9	15.0	22.9
医療・福祉業	569人	12.3	20.4	8.8	6.3	46.8	5.5	41.5
他サービス業	761人	2.1	5.9	7.4	14.1	46.0	24.6	15.4
その他の産業	503人	4.2	5.2	7.4	12.5	33.0	37.8	16.7

※配偶者票を除き、
回答者本人票のみで集計

4. 「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」得点質問×職種

※有職者対象

・「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」得点が3点以上(3個以上回答)の人が多い業種(全体値から5%以上高い)は、前頁同様、医療・福祉関連の職種(看護師、医師、介護士・ヘルパー等)が高く、加えて「保育士(42.5%)」「保健師(28.6%)」も高い。医療・福祉、保育関連以外では、「保安の職業(32.2%)」「運輸・通信(30.6%)」、「サービス系の職業(25.1%)」が挙がる。

職種	「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」得点							3点以上の割合
	全体	5点	4点	3点	2点	1点	あてはまるものなし	
有職者全体	4,898人	3.8	7.2	8.2	13.6	45.1	22.2	19.1
看護師	101人	14.9	18.8	7.9	5.9	49.5	3.0	41.6
医師	23人	26.1	17.4	13.0	4.4	34.8	4.4	56.5
介護士・ヘルパー等	151人	11.9	25.8	6.6	6.0	44.4	5.3	44.4
保健師	7人	0.0	14.3	14.3	0.0	57.1	14.3	28.6
保育士	40人	10.0	20.0	12.5	2.5	47.5	7.5	42.5
上記以外の専門・技術	552人	4.4	10.0	8.0	12.0	40.8	25.0	22.3
管理的職業	433人	3.2	4.6	6.9	19.6	40.7	24.9	14.8
事務系の職業	1,039人	2.5	3.7	6.2	15.1	43.9	28.7	12.3
営業・販売系の職業	610人	4.1	8.2	11.3	13.0	51.3	12.1	23.6
サービス系の職業	355人	4.5	9.9	10.7	11.0	56.1	7.9	25.1
生産技能・作業	506人	1.8	4.4	11.3	19.6	47.6	15.4	17.4
保安の職業	59人	11.9	11.9	8.5	13.6	47.5	6.8	32.2
農林漁業職	38人	0.0	0.0	0.0	31.6	42.1	26.3	0.0
運輸・通信	170人	5.9	11.8	12.9	14.1	47.1	8.2	30.6
その他	814人	1.2	4.2	5.3	10.0	40.3	39.1	10.7

6. 母子世帯(ひとり親)について

1. あなたご自身の仕事の種類(単数回答)

※配偶者票を除き、回答者本人票のみで集計

※有職者対象

※母子・父子世帯の多くを女性が占めることから、「女性」に限って集計

※配偶者あり世帯(ふたり親):配偶者と同居しており、19歳以下の子がいる世帯

※母子・父子世帯(ひとり親)の定義

片親と19歳以下の子供を含み、20歳以上の子供はいない世帯。他に祖父母など同居していても該当するが、20歳以上の子供も同居している場合は除外。対象者は未婚もしくは離死別(既婚は除外)とする。

医療・福祉関係の職種(黄色セル)に就いている割合について、「配偶者あり世帯(ふたり親)」「母子世帯(ひとり親)」でみると、「配偶者あり世帯(ふたり親)」は11.3%、「母子世帯」が13.4%。

		勤務先の職種															
		全体	看護師	医師	介護士・ヘルパー等	保健師	保育士	上記以外の専門・技術系の職種	管理的職業	事務系の職業	営業・販売系の職業	サービス系の職業	生産技能・作業	保安の職業	農林漁業職	運輸・通信	その他
配偶者・子供の有無※1	有職者女性全体※	1,885	4.4	0.1	4.4	0.2	2.0	6.8	0.6	31.1	11.2	11.0	6.3	0.2	0.9	1.4	19.6
	配偶者あり世帯(ふたり親)	480	4.8	0.0	3.1	0.2	3.1	9.4	0.8	28.5	12.7	13.3	5.4	0.4	1.3	1.3	15.6
	母子世帯(ひとり親)	336	6.6	0.3	5.4	0.3	0.9	3.6	0.3	28.9	10.7	9.8	7.1	0.0	0.3	2.7	23.2

※1 その他カテゴリの掲載は割愛

【医療・福祉関係の職種】
(黄色セル)

配偶者あり世帯(ふたり親)

11.3%

母子世帯(ひとり親)

13.4%

2. あなたご自身の仕事についてあてはまるもの 「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」度合を測定(複数回答)

※配偶者票を除き、回答者本人票のみで集計
※母子・父子世帯の多くを女性が占めることから、「女性」に限って集計
※配偶者あり世帯(ふたり親):配偶者と同居しており、19歳以下の子がいる世帯

配偶者あり世帯(ふたり親)

いずれか回答した人
(あてはまるものは何もない以外の人)

81.7%

「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」
得点 3点以上

22.7%

母子世帯(ひとり親)

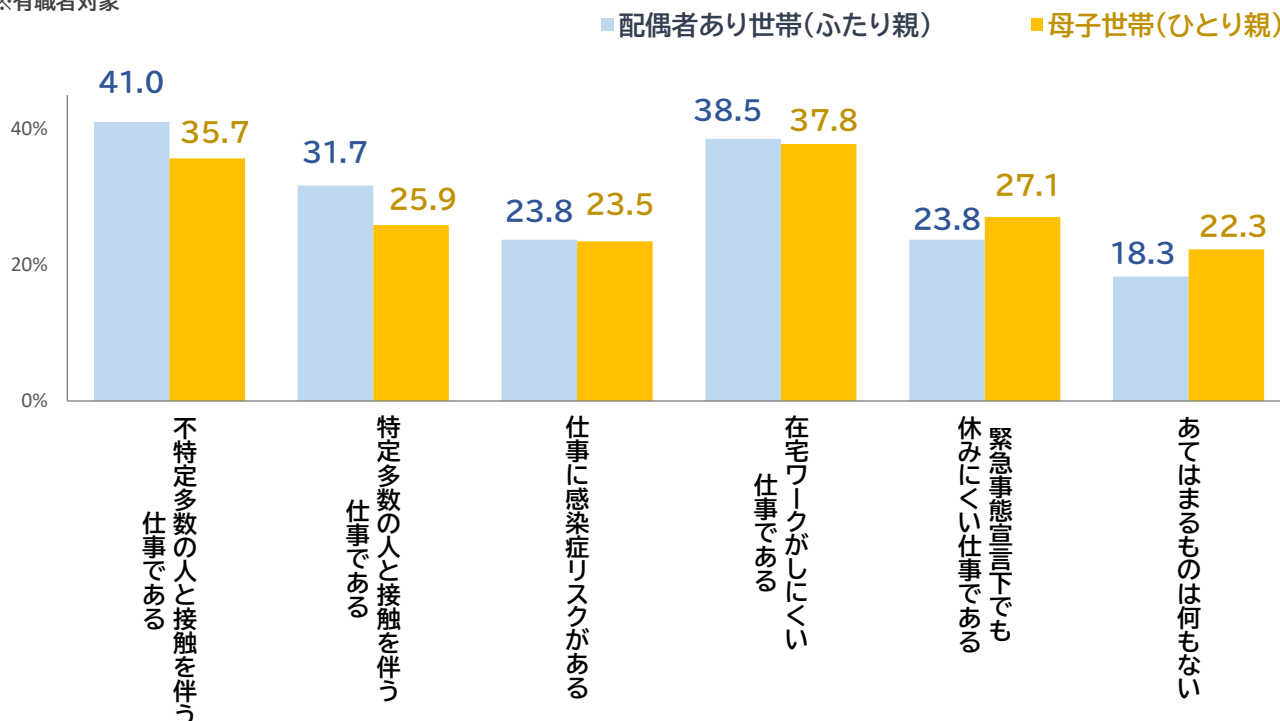
いずれか回答した人
(あてはまるものは何もない以外の人)

77.7%

「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」
得点 3点以上

22.9%

※有職者対象



▶選択肢の回答個数を得点化した「コロナ下でストレスを感じやすい業務を行う人」得点の割合で見ると、3点以上の割合は「母子世帯(ひとり親)」「配偶者あり世帯(ふたり親)」でほぼ同程度。

▶左記選択肢については、項目によっては高い・低いものの差があるものの、あまり「配偶者あり世帯(ふたり親)」「母子世帯(ひとり親)」で大きな差はない。

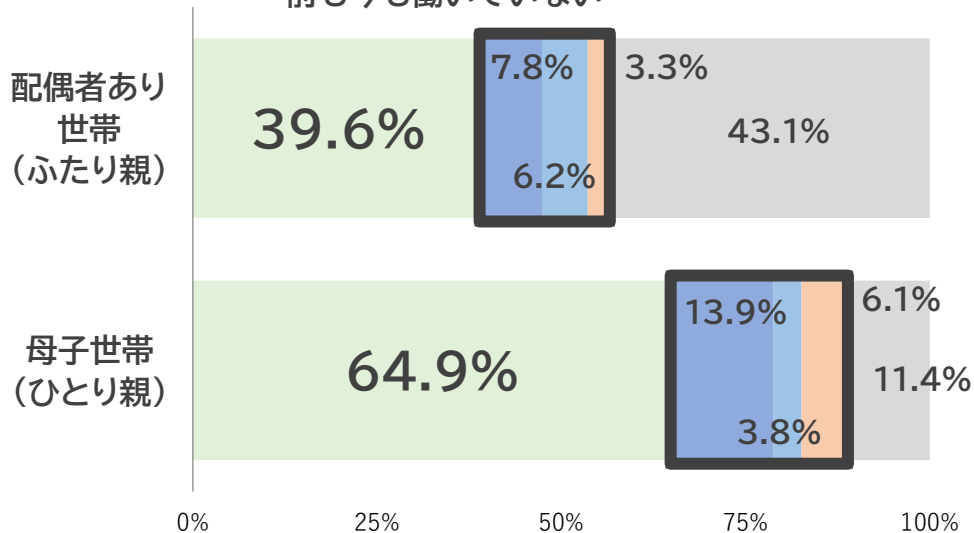
3. 仕事の変化と今後の継続意向

※配偶者票を除き、回答者本人票のみで集計
 ※母子・父子世帯の多くを女性が占めることから、「女性」に限って集計
 ※配偶者あり世帯(ふたり親): 配偶者と同居しており、19歳以下の子がいる世帯

- ・緊急事態宣言前後での仕事の変化は、「母子世帯(ひとり親)」の方が、変化があった割合が高い。
- ・同様に、現在の仕事の継続意向については、「配偶者あり世帯(ふたり親)」と比べ、「母子世帯(ひとり親)」で「転職したい」の割合が高く、「現在の仕事を今後も続けたい」が低い。

Q. 緊急事態宣言前と現在で仕事は変わったか

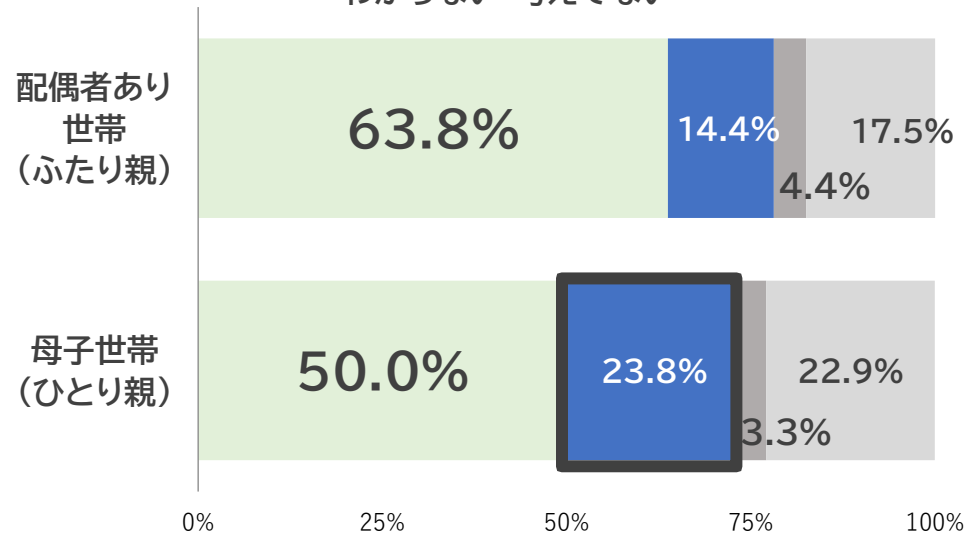
- 変わらない
- 仕事は変わった
- 前は働いていたが現在は働いていない
- 前は働いていなかったが現在は働いている
- 前も今も働いていない



Q. 現在の仕事の継続意向

※雇用されている人+会社役員が対象

- 現在の仕事を今後も続けたい
- 転職したい
- 今後は働きたくない
- わからない・考えてない



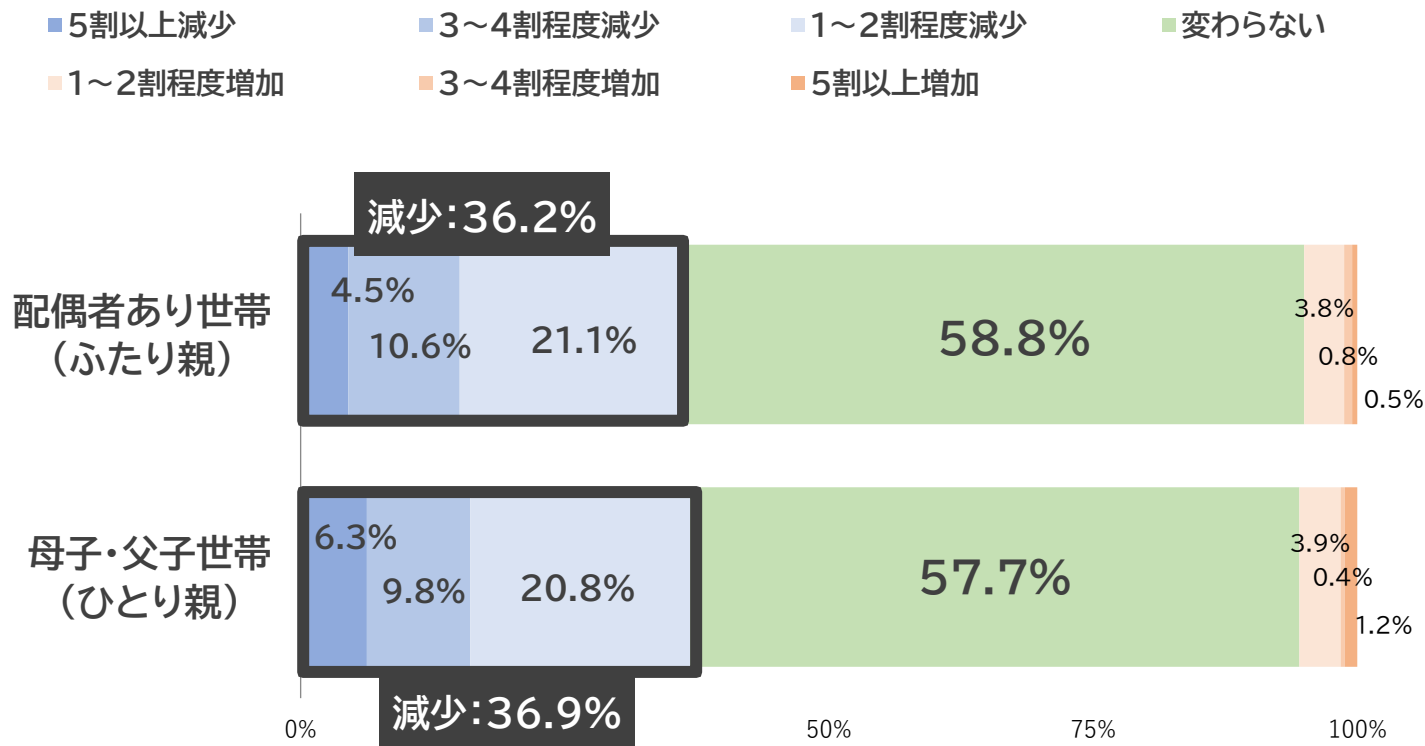
4. 収入の変化(昨年と現在を比べて)

※配偶者票を除き、回答者本人票のみで集計
 ※母子・父子世帯の多くを女性が占めることから、「女性」に限って集計
 ※配偶者あり世帯(ふたり親): 配偶者と同居しており、19歳以下の子がいる世帯

・個人年収の変化について、減少した割合は、「配偶者あり世帯(ふたり親)」36.2%、「母子世帯(ひとり親)」36.9%。

Q. 個人年収の変化

※現在収入がある人対象
 ※わからない・答えたくないを除き集計



5. 現在の生活満足度と幸福度

※配偶者票を除き、回答者本人票のみで集計
 ※母子・父子世帯の多くを女性が占めることから、「女性」に限って集計
 ※配偶者あり世帯(ふたり親): 配偶者と同居しており、19歳以下の子がいる世帯

・「配偶者あり世帯(ふたり親)」と「母子世帯(ひとり親)」の生活満足度、幸福度を比べると、どちらにおいても、「母子世帯(ひとり親)」の方が低い。

